

～新たなスキル訓練環境のための政策・教育・研究アプローチ～

京都府における大学政策

平成25年12月12日
京都府政策企画部戦略企画課大学政策担当長
福原 早苗



京都は「大学のまち」、「産学公連携」の先進地



「知」の集積地

- ・京都府内の大学・短期大学数 46
- ・学生数 約167,000人（留学生数約6,900人）
- ・人口に占める学生の割合 15.7（15.7人に1人が学生） → 全国第1位

産学連携の伝統

基礎から応用まで世界最先端の研究開発を行う大学
伝統的技術から最先端技術まで幅広い分野で応用技術を有する多数の企業
千年の都として歴史・文化の中心にあり、全国から多様な人材が集積

世界的ハイテク企業に成長した京都の優良企業のルーツは大学との共同研究
(京セラ、オムロン、任天堂、堀場製作所、日本電産、村田製作所、ローム等)

オール京都体制による産学公連携



- ・京都産学公連携機構(平成15年2月設立)
→ 中小企業の研究開発プロジェクト形成活動を支援
- ・京都産業育成コンソーシアム(平成23年3月設立)
→ 産業政策の司令塔として、京都産業の成長戦略推進や次代を担う産業支援体制を構築

京都府の基本認識



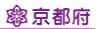
「大学は京都の宝」

平成25年12月定例会での大学政策に関する
代表質問に対する知事答弁(抜粋)



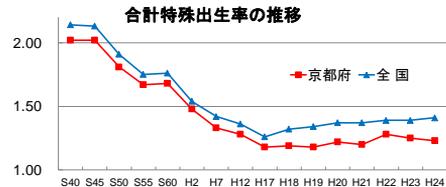
- 多数の大学が立地し、多数の大学生が学ぶ「大学のまち京都」にとって、大学の存在は京都の大きな宝であると思っています。
- 大学による人づくりや地域貢献、大学を核にした交流を推進することは、京都の成長戦略を支える上で大変重要な役割を持っていると思っています。

京都を巡る環境の変化



① 京都府の少子化の状況

- 合計特殊出生率の全国平均値は微増し続け、平成24年は1.41であるものの、京都府では2年連続で低下し、平成24年は1.23と、少子化に歯止めがかからない状況
- 京都府の人口は、30年後には約40万人減少すると見込まれている

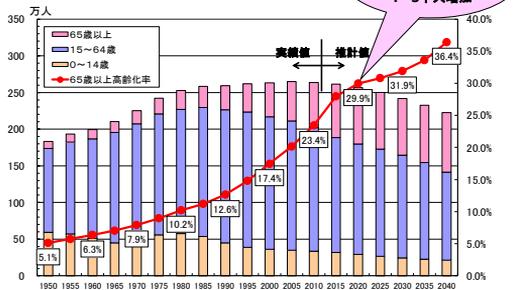


出典：厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

京都を巡る環境の変化



② 京都府の将来人口と高齢化



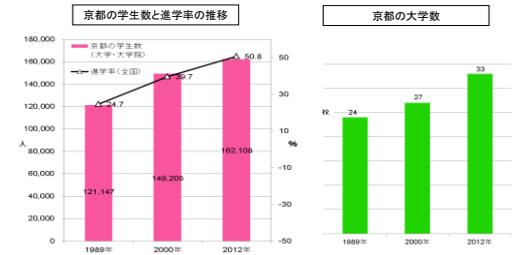
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

京都を巡る環境の変化



③ 京都府の学生数の推移

- 大学進学率(全国)は上昇(50%超)し、2人に1人が大学へ進学している状況。
- 少子化が進行中、大学数、大学生数は増加している。



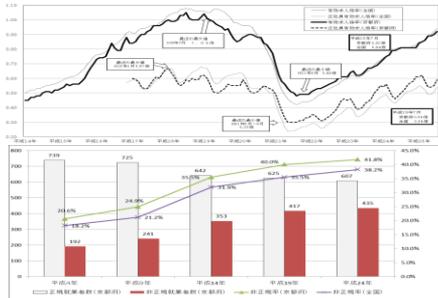
※ 学生数は、学校基本調査(各年5月1日現在)、外国人留学生数は、独立行政法人 日本学生支援機構 調べ(各年5月1日現在)

京都を巡る環境の変化

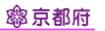


④ 京都府の雇用情勢1

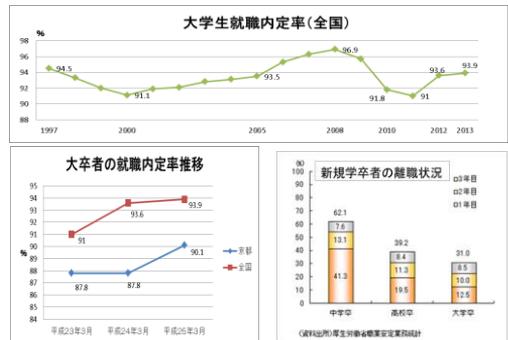
○ 京都府内の雇用情勢は緩やかに持ち直しているが、非正規雇用の割合の高まり等、構造的な問題が存在しており、地域ニーズを踏まえた積極的な雇用施策が必要



京都を巡る環境の変化



④ 京都府の雇用情勢2



京都ビジョン2040【京都の未来を考える懇話会】



● 30年後の京都の「ありたい姿」を探る

- 京都の行政、産業、大学、文化芸術、メディアの代表が3年間語り合う
- オール京都で府民、市民が一掃にめざしたいと思う京都の未来像を描く



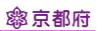
京都府知事、京都市長、京都大学総長、京都商工会議所会頭、京都府観光推進会長、華道家元、京都新聞社代表取締役

● 「世界交流首都・京都」を提案 (H25.5.31)

- 日本文化の中核として、知や精神の交流、**人と人との交流、文化や産業の大交流**を創り出し、活気と創造性にあふれる京都をめざす
- このビジョンを達成するために3つの柱を提案
 - ① 世界の文化首都・京都
 - ② 大学のまち・京都
 - ③ 価値創造都市・京都

交流により新たな価値とイノベーションを創出

大学のまち・京都【京都ビジョン2040】



京都全体をキャンパス化し、世界中から集う学生・研究者・芸術家や地域住民など、あらゆる人々が活発に交流し、社会課題を解決するとともに、新たな知見を生み出す大学のまち

● 魅力的な学部・大学院教育

リーディング大学院など多様で個性的な大学の教育環境が充実し、世界で活躍する人材を輩出する

● 大学ユートピア特区

公的施設の無料化や税制優遇など、理想的な教育・研究・起業環境が整備されたまちを創る

● 留学生5万人の実現

多くの留学生が日本文化に触れながら暮らし学べる、京都の特色を生かした施設や住環境などを整備する

大学生と異文化潜在者の数(推計2010年)

都府県	人口10万人当たりの	
	大学生(うち留学生)	異文化潜在者
京都府	5,543人 (518人)	32.5人
神奈川県	2,278人 (144人)	12.5人
愛知県	2,582人 (125人)	14.1人
京都府	6,116人 (276人)	41.2人
京都府	9,175人 (379人)	-
大阪府	2,578人 (170人)	13.7人
全国平均	2,255人 (157人)	13.8人

大学のまち・京都づくりに向けて



「大学のまち・京都づくり推進プラン」(中間案) 25年策定

1 大学が地域社会、地域産業に貢献する仕組みづくり
地域再生・活性化の核となる大学群の形成を促進するとともに、**大学の有する総合的な知と力を地域貢献に結び付ける。**

2 多様な分野における大学発のイノベーション創出
京都が大学を核とした「知」を生み出し、新たな価値を創造し続ける拠点となるよう、環境整備を進める。

3 優秀な学生・研究者等を惹きつける環境づくり
大学が研究者等を内外から集めやすくする環境を整備するとともに、大学の教育内容と教育環境の国際化を進め、グローバルな視点をもって地域社会や地域産業の活性化を担う人材を育成する大学を支援する。

大学と地域の連携(京都府北部地域・大学連携機構)



北部地域の将来にわたる維持と持続的発展に向けた枠組み作り

【自治体】 京都府、福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町
【大学】 成美大学、龍谷大学、京都府立大学、京都橋大学、京都産業大学、京都大学地域生存学総合実践研究ユニット、京都工芸繊維大学
【NPO等】 一般財団法人地域公共人材開発機構その他北部地域で活動する4NPO法人

(一社) 京都府北部地域・大学連携機構

平成24年4月設立

○ 地域と大学の連携事業のコーディネーター
・地域が抱える公共的政策課題と大学のシーズとのマッチング

○ 地域内の公共人材の体系的育成
・地域公共人材育成のプログラムを提供、資格制度の運用 (地域公共政策士)

○ 地域課題の提示と解決に向けた活動への参画
・設立以降、宮津バリアフリー観光、域学連携等に着手



大学と地域の連携(グローバル人材開発センター)



地域社会を支え京都の活力を創出する人材を産学公連携により育成



12

大学と地域の連携(京都ギャップイヤー事業)

産学公が連携し高校生の段階から人材育成をスタート



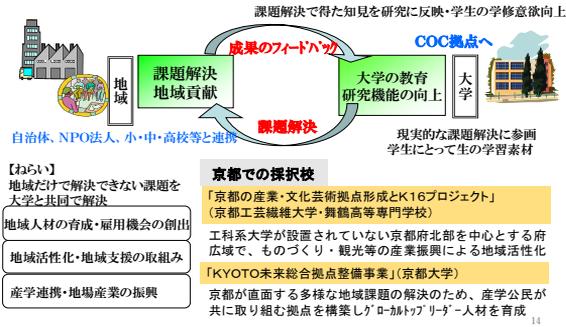
13

大学と地域の連携(大学COC事業)



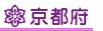
大学COC事業(文部科学省補助)を活用した大学との連携深化

大学COC(Center of Community)機能(平成25年度～)

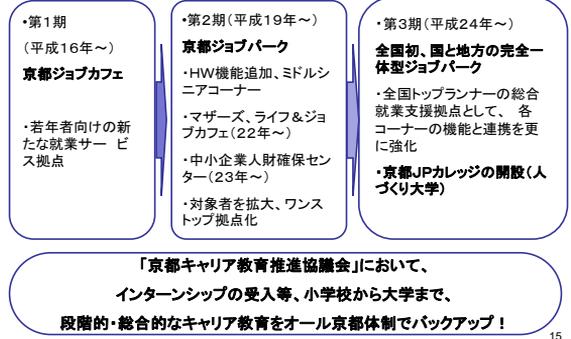


14

雇用対策との連携(京都ジョブパーク)



京都ジョブパークとの連携強化



15

むすび



●「世界交流首都・京都」へ

日本文化の中核として、知や精神の交流、**人と人との交流、文化や産業の大交流**を創り出し、活気と創造性にあふれる京都をめざす

●「大学のまち・京都」

京都全体をキャンパス化し、世界中から集う学生・研究者・芸術家や地域住民など、**あらゆる人々が活発に交流し、社会課題を解決**するとともに、**新たな知見を生み出す**大学のまち

16

ご静聴ありがとうございました



京都府広報誌 まいまる